

地域ぐるみで取り組む鳥獣被害対策 ＜吉隠地区＞

桜井市農林課

桜井市吉隠地区では、集落における獣害を防ぐため、地域住民一体となって獣害対策に取り組んできている。

今回は獣害対策に取り組むモデル地区として、その取組事例を紹介し、他の地域が獣害対策に取り組むうえでの参考にしていただくのが目的である。

現在まで吉隠地区において実施された獣害対策に関する事業は以下のとおりである。

- H25～R1 獣害につよい里山づくり事業【県】（現在廃止） — 放置林・放置竹林の伐採などの環境整備を支援
 - H27～現在 有害野生獣防止柵支給事業【市】 — 集落が設置する獣害防止柵を支給
 - R3～現在 集落ぐるみ被害対策事業【県】 — 獣害対策に取り組むモデル地区として県が支援
- その他、地域住民による防止柵の点検・補修や捕獲檻の設置等の取り組み

1 集落の概要



○農家数 40戸 ○農地面積 16.8ha

○地域の特徴 吉隠は万葉集にも詠まれた歴史ある土地であり、現在でも美しい田園風景が広がっている。地域の棚田で育てられた吉隠米は地域ブランドに認定されており、吉隠米や地元産の野菜を販売するイベントを開催するなど、地区をあげて地元の魅力を伝える活動を展開している。



2 取組の概要

- 獣害防止柵の設置・点検・補修
集落の山際に防止柵を設置。設置後は定期的に点検・補修を実施。
- 捕獲罠の設置
被害の多い地域には、猟友会の協力のもと捕獲罠を設置。
- 荒廃地の整備
獣の隠れ家となりうる耕作放棄地の草刈り、施業放置林の間伐などを実施。
- センサーカメラによる野生獣の侵入状況の確認
県中部農林協力のもと、カメラにより侵入状況を確認し、対応策を検討。
- 報告会の実施
被害状況や対策の効果、今後の課題などを地域住民間で共有。



——— 獣害防護柵の設置箇所

○獣害防止柵の設置・点検・補修

(有害野生獣防止柵支給事業【市】)

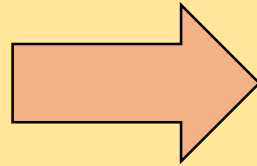


設置作業には毎回20名程度が集まります。

柵の設置は平成27年から毎年実施してきました。これまで設置した柵の総延長は約4500m!



○獣害防止柵の設置・点検・補修



雑草まみれになった柵も、きちんと草刈りすることで、シカ・イノシシが接近しにくくなり、故障箇所も見つけやすくなります。

○獣害防止柵の設置・点検・補修



集落への侵入を防ぐためには
車道にも柵を設置しないとダメ。
住民みんなの共通理解が必要です。

○獣害防止柵の設置・点検・補修 (集落ぐるみ被害対策事業【県】)

県中部農林振興事務所の協力のもと
シカが飛び越えそうな場所は
柵上部にネットを張りました。



イノシシが下をくぐりそうな
場所は網で対策。
防止柵は定期的な点検・補修
が大切です。

○捕獲罠の設置



猟友会の協力のもと、集落で設置した檻にイノシシが捕まりました。

○荒廃地の整備（獣害につよい里山づくり事業）



シカ・イノシシの隠れ家となる耕作放棄地や荒れた山林の整備をして、集落への接近を防ぎました。

○センサーカメラによる侵入状況の確認

(集落ぐるみ被害対策事業【県】)



中部農林振興事務所の協力のもと
防止柵周辺にカメラを設置。
シカ・イノシシの侵入経路や侵入
方法を確認しました。

シカは柵を飛び越えて出入りして
おり、イノシシは柵を破って侵入
しています。

侵入経路・侵入方法が分かれば、
その後の対策がスムーズに行えま
す。

○報告会の実施



被害状況や防止柵の設置状況を確認し合い、今後の対策を話し合っています。

地域の一体的な獣害対策には、こまめな情報共有が不可欠です。

4 成果が得られた要因と課題

成果が得られた要因

- 被害状況や地域の課題を地域住民で共有したうえで、農地や農道周辺の草刈り等の環境整備、獣害防止柵の設置等を地域一体となって取り組んだ。結果として、住民の間に獣害対策は住民共通の課題であるという意識が生まれた。
- 防止柵は設置して終了ではなく、設置後も定期的に見回りを行い、補修が必要な箇所が見つかれば早期に補修を実施した。

今後の課題

- 地域住民の高齢化が進んでおり、将来の地域活動の継続に不安がある。今後の地域活動を担っていく人材の確保・後継者の育成が必要である。

5 集落および市の感想・意見

< 集落代表者の意見 >

吉隠地区では、美しい風景を守り、安心して生活できる村を区民が協力しあって作っていくというコンセプトのもと地域活動に取り組んでおり、獣害対策もそういった村づくりの一環として取り組み始めました。四方を山で囲われた当地区では、集落をぐるりと柵で囲わないと獣害の抑制は困難であり、そのためには区民全体の協力が不可欠です。柵設置作業には農家・非農家に関わらず参加を依頼し、区民一体で作業を行う機会を設けるようにしました。結果的に獣害対策は区民全員の課題であるという意識が醸成されたと思います。今までの活動を通じて感じたことは、課題を地域で話し合い、みんなでアイデアを出し合い、地域一体となって適切に対策をとっていけば、獣害は確実に抑制されていくということです。今後も引き続き吉隠の農地を守る活動を通じた村づくりに取り組んでいきたいです。

< 市担当者の意見 >

地域住民が一体となって獣害対策に取り組んでおられ、「自分たちの地域は自分たちで守ろう」という意気込みが伝わってきます。防護柵や捕獲檻の設置、農地周辺の環境整備が非常にスムーズに進められていく様子を眺めていると、獣害対策において、地域ぐるみで対策を講じていくことがいかに大切かを再認識させられます。猟友会会員の方も「これだけ地域が獣害対策に積極的だと駆除の甲斐がある。」とおっしゃっていました。市としても獣害対策に積極的な集落の支援を進め、吉隠のように地域ぐるみで獣害対策に取り組む集落を増やしていきたいです。